

Katharine Ross in  
**the  
Legacy**



ショック映画史上最大のスケール/いま静かにしのびよるパステル・カラーのキャサリン・ロス!

co-starring  
Sam Elliott・Charles Gray・Lee Montague・Hildegard Neil・John Standing・Margaret Tyzack  
and  
Roger Daltrey as Clive  
Produced by David Foster・Director Richard Marquand  
Story by Jimmy Sangster・Music by Michael J. Lewis



愛されたのですね、  
誰もいない夜…  
選ばれたのですね、  
この世界で たった一人 あなたが…

# レガシー



キャサリン・ロス サム・エリオット ロジャー・ダルトリー チャールズ・グレイ ヒルテカード・ニール  
監督 リチャード・マーカンド 製作 デビッド・フォスター ラリー・ターマン 原作 ジミー・サンクスター 撮影 ティック・ファッシュ  
音楽 マイケル・J・ルイス 衣装デザイン シーラ・コーエン カラー 作品 米・英合作 東宝東和提供 サーカム・サウンド方式



4月28日(土)より日本全土は震えあがる

伊勢丹前 新宿ロマン劇場 (351) 3674



# 《フランシー・シヨック》に全世界は息を止めた!

シヨック映画史上最大のスケール!  
製作費はなんと1280万ドル!

アメリカ、イギリスで空前の大ヒットを記録している全く新しいタイプの恐怖映画がやってきた。「ゲッターウェイ」のデビッド・フォスター、「卒業」のラリー・ターマン、この2大プロデューサーが手結び、シヨック映画史上最高の製作費——1280万ドルを投じ、いままで誰も気づかなかった世界に挑んだ。眩しいばかりのファッショナブル感覚と、シニールな映像、そして異次元へ誘いこむサウンドが、観るものの心を美しく凍らせてしまう。それは《フランシー・シヨック》と呼ばれ、従来の恐怖映画やオカルトに飽き足りなくなった観客に大きな衝撃を与えた。いま《フランシー・シヨック》の誕生に、全世界は息を止めた。

アカデミー賞、エミー賞に輝く  
米・英映画界最高のスタッフが結集!

監督は2度のエミー賞に輝くイギリスTV界の鬼才、リチャード・マーカー。彼の第1回監督作品である、シャープなタッチは、映画界は新しい才能を生んだ、といわれ、この作品の成功で、いま世界でも注目を集めている監督の一人となった。撮影は「恐怖の報酬」のディック・ブッシュ、編集は「アラビアのロレンス」でアカデミー賞を受賞したアン・コーツ、音楽はマイケル・J・ルイス。いずれも米・英映画界から選ばれた超一流のスタッフである。

美しいヒロイン、キャサリン・ロスが  
新しいロマンスの相手と共演!

《フランシー・シヨック》を美しく彩るヒロインは「卒業」「さすらいの航海」のキャサリン・ロス。「娘から女へ——いま人気、実力とも最高のアクトレスだ。相手役にはTVの人気スター、サム・エリオットが抜てきされた。この二人は「レガシー」がきっかけとなり、いまロマンスが囁かれている。他に、「トミー」で特異な個性を見せたロジャー・ダルトリー、チャールズ・グレイ、ビルデガード・ニール、リー・モンテグなどが脇を固めている。

ロサンゼルスからロンドンへ——  
信じられぬ恐怖に招かれたマギー!

マギーはロサンゼルスに住む美しい建築デザイナーだ。新しい仕事の依頼を受け、恋人のビートとともにロンドンにやってきたが、ふとした交通事故がもとで、郊外の豪華な邸宅に招かれた。それがマギーを信じられぬ恐怖の世界へ導く発端になろうとはいったい誰が予想できたろうか。17世紀スチュアート朝時代のその邸には、いまにも朽ち果てんばかりの老醜の身を隠す館の主人、冷血人間のような看護婦と召使いたち、そして不気味な白い猫がいた。

なぜ私が? いったい誰が?  
マギーに底知れぬ不安と戦慄が迫る!

邸の客はマギーたちだけではなかった。世界各国から得体の知れぬ上流社会の男女5人が到着、一行はマギーたちと初対面なのになぜ慣れくしい。そしてその夜から邸では不可解なことが起りはじめた。1人:2人:、5人の客たちは次々と変死をとげる。彼らの悲劇に立ち合ってしまったマギーの不安と恐怖を追って、想像を絶する「謎」の核心へ接近。クライマックスからラストへ——「誰も気づかなかった世界」が、いまマギーの目の前に現われようとする!

ロンドン郊外で長期ロケ!  
背景も小道具もすべて本物を使用!

この映画に登場する建築物、車、そして書斎の置き時計ひとつにいたるまで、すべてに本物が用意された。その最たるものがこの映画の舞台となる17世紀から続く荘園、ラベンスハースト邸であろう。この架空の館を実現させるために、モデルを英国中に探し回った末、16世紀の荘園領主の館を何と4つも用意したのだった。それぞれに、由緒ある邸宅だけに、そのレンタル料や保険料は300万ドルにのぼったという。さらに徹底した本物指向は、館だけにどまらず、遂には、ケント市のハンブルアン村を3週間にわたり貸り切るというスケールの大きさであった。

